

40 のこ だけ 鋸 岳 (582m) ~ 41 やか^ゝたいしやま 矢形石山 (587m)

地 域 津軽半島・西海岸
2008年11月9日

[ルート] 増泊林道西俣沢登山口⇄鋸岳⇄矢形石山
[参加者名] CL M.KIKUCHI 他 14 名
[コースタイム] 沖館フェリー埠頭7:00→三厩駅8:15→増泊林道駐車場8:49→登山口8:56→
休憩9:27→鋸岳10:11→矢形石山・三角点11:30→鋸岳・昼食12:20→
増泊林道駐車場13:47→三厩駅・解散式14:19

[山行記録]

【鋸岳まで】久しぶりの山行、しかも訓練山行である。足がつりそうなのが心配。いつぞやの悪夢が蘇る。準備会
に出席できなかったので、鋸岳や矢形石山がどこにあるのか分からない。目的地に向かう車中で「のこぎりだけ」
と盛んに言ったら、同乗の T.T SL に「のこだけのこと？」とつれなく言われ、あんぐり。沖館のフェリー埠頭に集合し
菊池CL車を先頭に出発。青い車は相変わらず早い。三厩駅に到着しM.Kさんと合流する。車は外ヶ浜・増川か
ら左折、増泊林道に入る。途中、Y字路を右折し西俣沢側に進む。右手斜面に落石のあと。右手に伐採された
ヒバの丸太が積み上げられている。そばに東屋があるのが駐車場だ。そこから木材搬出用の車が通れる林道が
続くが入り口に鉄線が張られて通れない。空模様はくもり、風は無い。歩き始めて程なく右手に登山口の看板が
見えてくる。ヒバ林の中の急な道をジグザグに登る。手入れが行き届いたヒバ林が見事だ。山道も整備されてい
て、途中登坂補助用のロープも張られている。春に登った眺望山を思い出した。ヒバからだんだんブナの木が増
えてくる。間もなく林が開けたところで休憩に入る。上着を脱
いで水分を補給する。枯葉を踏みしめ、低木や笹藪の中
を進む。時折、雲間から日差しも覗く。風衝帯をしばらく歩くと左手に大きく視界が開けて来る。左手に小泊の権現崎
が望むことができ日本海が広がる。遙か遠くに七里長浜も見える。道は右手に緩やかに折れ、なだらかな尾根を通
って鋸岳の山頂(582m)に到着。周りに遮るものがないため見通しが良く、南側に増川岳や袴腰岳など津軽半島の
山々が連なって見える。



【矢形石山まで】休憩を挟んで踏み跡を頼りに東側鞍部を
下り矢形石山に向かう。いったん降りて登りに差し掛かると竹藪に突入。訓練山行はこうでなくちゃ。よしっ！と気
合いを入れ2mを超す竹の群生をかき分けながら進む。倒した竹が体のあちこちを鞭のように叩き痛い。あまりの
群生にどこを歩いているのかまったく分からない。頭も下向き気持ちも下向き。スパッツは足下にズリ落ち、スト
ックは引っかかる、着込んだ雨具は穴が空くは、顔は叩かれるは悲惨だった。見上げれば T.S SLが猿のように小
高い木に登って進路の確認をしている。他は前の人の背中だけがやっと見えるだけ。それをたよりに進む。後続
の仲間は見えず竹が擦れあう音しか聞こえない。矢形石山までの40分はなんと永い時間であったことか。これ
で風が吹き、雪や雨が降ろうものならとんでもない。隊列は竹藪をやっと抜け鞍部を覆う低い笹藪や短いガレ場
を通り山頂へ向かう。少し左に下ったところで戻れと声が入る。もと来た道を少し戻り、目指す矢形石山の山頂
に着く。山頂は笹藪がある平らだが狭い場所。三角点(587m)の標柱にめいめい手を添え喜びを噛みしめる。
空模様も怪しくなったので昼食はここでは取らず戻ると決定。復路はほぼ来た道に戻る。12:20鋸岳の山頂の
そばの祠がある狭い空き地で昼食を取る。13時直前に駐車場に向け出発。登山口に入るところの経路の一
部を変更したことを除けばほぼ同じ路を戻った。後ろを見上げれば、木々の間からそこだけ日を浴びた鋸岳山頂
がぼっかり見えた。解散式は三厩駅で行いそこから各自帰宅となった。私にとって久々の山行だったが、天気
にも何とか恵まれみごとなヒバ林を歩き藪こぎ体験ができ津軽半島の山々と日本海の景色を堪能できた、とて
も有意義なものでした。

報告 F.TSUKUTA

2007年6月2日

[ルート] 南股沢林道登山口⇄山頂
 [参加者名] Y.NARA 他1名
 [コースタイム] 自宅(青森)7:20→やすらぎ公園 WC9:00→登山口 9:05~9:20→
 休憩 10:20~10:25→山頂 昼食 11:55~12:55→登山口 15:05

[登山口までのアプローチ、登山口の様子]

外ヶ浜町(三厩)の増川から増泊林道に入り、約7km進む。道は二股になって『増川岳登山口』の標識がある。左の道を進み数十m進むと駐車場があり、駐車場の反対側に登山口の標識がある。

[山行記録]

登山口から薄暗いヒバ林の中、登って行く。割と急だ。遠くでアカショウビンとアオバトが鳴いている。所々立木に赤ペンキ、やがて周囲の樹林はブナ主体となる。道の両側、シダ、ミズ、フキ、ヤグルマソウ等、いい雰囲気の中をジグザグに急登。足元、石混じりでちょっと要注意。10:59 今日のお目当てシラネアオイ第一号発見、と思ったら尾根に出る。下ったり登ったり、木漏れ日の中を30分ほどで山頂。ヤッホー、着いたぞ。袴腰岳、丸屋形岳を望み、すぐ隣に浜名岳、後ろに木無岳 あれは四ツ滝山か。



セクシーツイストブナ

山頂で昼食。途中から一緒のジイサンのカセット テープは、懐メロオンパレード。♪キーシャの窓からハンケチ振ればー♪とジイサン、歌までつけてご機嫌。ちょっとなぁ…。そういえばウグイスもしつこいくらい鳴いている。鳥も忙しいこの季節。下山は往路をさらにゆっくり、注意して引き返す。

報告 Y.NARA



シラネアオイ、ちと過ぎてた?